

今後のエネルギー情勢と核軍縮・核廃絶を考える
—令和4年度第2回研修会を開催—

令和4年10月17日（月）、KAKKINは友愛会館においてエネルギーと経済・環境を考える会と共催で、研修会を開催しました。

前半の講演Ⅰは、日本エネルギー経済研究所客員研究員の十市勉氏による「混迷する世界のエネルギー情勢と日本」。世界のエネルギー事情は1年前とは一変し、エネルギーのS+3Eのうち、世界的な需給逼迫と価格高騰で、「エネルギー安全保障・安定供給」と「経済性」が揺らいでいます。この現状を確認した上で、今後のエネルギー情勢の見通し、そして日本はどのような政策をとるべきなのかを考えました。



十市講師



佐野講師

また後半の講演Ⅱは、元ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部特命全権大使の佐野利男氏による「核抑止、NPTそして核兵器禁止条約～ウクライナ侵攻に際し考える」。ロシアがウクライナ侵攻に際し核兵器の使用も辞さない構えを見せ、日本も含めて世界的に厳しい安全保障環境の中で、核兵器廃絶をどう実現していくか。6月の核兵器禁止条約締約国会議と8月の核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議の議論も踏まえて、今後の核軍縮・廃絶への道筋を考えました。



*詳細は後日発行する KAKKIN ニュース第 89 号に掲載します。